

鳥取西高近畿同窓会報

第 13 号

2021 年 4 月 1 日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会

発行責任者：窪田邦倫（西高 45 年）

編集責任者：山内紀嗣（西高 43 年）



同窓会の絆

鳥取西高近畿同窓会

会長 窪田 邦倫

(西高四五年)



これほど脆いのかと
思うような惨状が昨
年、世界を覆いました。

新型コロナウイルスの

感染症です。高度に発達した文明はこの「見えな
い敵」に破壊され、世界史に刻まれる年となりま
した。そして、その影響は近畿同窓会にも及びま
した。

令和二年の同窓会は六月二八日(日)を予定し
ていましたが、感染リスクが危惧されるため、十
月四日(日)に延期しました。しかし、その後も
収束の目途は立たず、今も時間だけが過ぎていき
ます。

当時、大阪では府知事が「科学的根拠はないが
…」としながらも、五人以上の会食の自粛を要請
し、特に重症化しやすい高齢者は予防に努めるよ
う注意を呼びかけ、行政の要請も緊迫度が高まっ
ていました。

こうした状況を検討し、昨年近畿同窓会は、

やむを得ない選択として総会・懇親会の中止を決
めました。

本来、この欄には前年に開催された同窓会の
様子が紹介されますが、今回は会場となる大阪
キャッスルホテルに集う会員の笑顔や、和やかな
会場風景が伝えられません。残念です。

毎年の同窓会では名残が尽きない中、ファイナ
ーで校歌が声高らかに歌われます。そこには、高
女の校歌を卒業生の皆さんが懐かしそうに歌われ
る姿もあります。参加者が一つになって絆を深め
る時です。でも、昨年はそれも叶いませんでした。
寂しいです。

先輩、後輩、同級生、世代も、仕事も、住所も
違う人たちが、会報に近況や自分の思いを綴り、
年一回、一堂に会して、お互いを励まし、過ぎ去
りし日々を想い、在りし日の出来事を振り返り、
これからの人生を語り合う。時には母校の応援団
として、手を差し伸べる。同窓会は、そんな組織
だと思います。



昨年の流行語に「時を戻そう」がありました。
コロナ禍は、収束までにはまだ時間がかかりそう
です。同窓会を開催できる環境が戻り、皆さんと
お目にかかれること、心を一つにして校歌が歌え
ること。その時が戻ってくることを信じています。
その日のために、焦りや挫折が生じないようにしつ
かりと同窓会の絆を繋いでいこうと思います。

今年の干支は「丑」。高村光太郎の詩「牛」に『ひ
と足、ひと足、牛は自分の道を味はつて行く』と
いう一節があります。昨年に続いて今年も「ウイ
ズコロナ」の環境の中で慣れないことや制約があ
ると思いますが、近畿同窓会は「歩みはゆっくり
でも、参加してよかった」と思える会を目指しま
す。楽しく、魅力のある同窓会を築くため、今後
とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上
げます。



退任のご挨拶

前鳥取西高校長

山本英樹

令和二年度、新型コロナウイルスの影響により鳥取西高でも臨時休業や行事の縮小・中止などを余儀なくされました。特に、三年生にとって、部活動の集大成の場となる高校総体など目標としてきた大会が中止になり、言葉にならない残念な思いや悔しさが残ったことと思います。しかしながら、三年間の活動を通して得た、たくましさ、困難を乗り越える力、あるいは友情といったものは、先輩たちと変わるものではなく、このような経験も、将来、それぞれの道を切り開いていく力になるものと確信しています。

さて、本校では去る三月一日、卒業証書授与式を執り行い、式辞の中で、卒業生諸君に本校の大先輩の佐々木惣一博士のエピソードを紹介しました。

その大要は、「大正二年七月、時の京都帝国大学総長澤柳政太郎が、七人の同大学教授に辞表を提出させたことに対し、京都大学法学部教授会は、免職の基準が明確でなく、しかも学長の独断専行、これでは学問の自由は守れないとして学長に抗議、勢いのおもむくところ、大正三年三月、法学部教授一同が辞表を提出。時の文部大臣は、奥田義人博士（本校創立時の変則中学の第一期生）。また、学問の自由を保障されるためには、徹底的に事の是非を論じるべし」として、法学部教授会をリードしたのは佐

々木惣一博士（鳥取尋常中学校第七回の卒業生）。奥田文部大臣は、京都大学総長と法学部教授会の双方の主張を聞いたのち、教授会に軍配を上げ、京都大学に対し、学問の自由、大学の自治を公式に認めたのである。奥田義人と佐々木惣一、本校の先輩両氏が、『学問の自由』という歴史に残る、そして新しい時代を切り開く解決を成したことを、後輩として記憶にとどめておいてほしい。

『世紀の朝の輝きに、真理の前につつましく』、物事の本質を求めようとし、それに忠実であろうとする意志と努力。これこそが鳥取西高の誇るべき伝統であるというものです。

本校の卒業生には、理想や信念をもち、それを貫いた人が多く、そこに、実益や具体的なものだけではみられない世界を感じます。先の見通せない時代において、時流に敏感であることは必要であるかもしれませんが、卒業生諸君には、今、どこでなにが起こっているのか理解するとともに、自分なりに物事の本質を考え、自分の意志で行動できる人になってほしいと思います。

終わりに、私ごとですが、この三月をもちまして定年退職いたしました。平成二十九年から四年間の校長在任中、近畿同窓会の皆様にはたいへんお世話になりました。総会出席の度に皆様の母校鳥取西高への熱い思いを感じ、また、あたたかい言葉をかけていただき、在校生・職員にとって大きな力になりました。深く感謝申し上げます。

ますとともに、近畿同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念してごあいさついたします。本当にありがとうございました。



令和二年度

鳥取西高ご卒業の皆様へ

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の災禍により、長期に及ぶ大変な状況と自粛を強いられました。皆様はこれまで誰も経験したことのない厳しい環境の中で学び、本日、卒業証書授与式に臨まれています。

苦難を乗り越えて喜びの日を迎えられた皆様に心から「おめでとーございませう」と、祝福の言葉を贈ります。また、皆様は卒業と同時に伝統の同窓会に入会され、新しく会員になります。このことに心よりお祝い申し上げます。

鳥取西高には輝かしい歴史があり、時代とともにたくさんの人材を国の内外に輩出しています。近畿を中心とする西日本でも



西高ホームページより

答辞

様々な分野で活躍する卒業生が世代を超えて集い、近畿同窓会という場で交流を広げ、絆を深めておられます。

皆様にもぜひ、近畿同窓会にご参加いただき、皆様とともにこの会を未来へしっかりと繋いでいきたいと、私たち会員一同は熱望しています。皆様の同窓会活動へのご理解とご協力、そして、ご参加をお待ちしています。

最後に、一つの言葉を紹介します。それは「今日を大切に。今できることを。失敗は後で笑い話になるが、やらなかったことは、後悔しかない。踏み出す一歩で目標に近づくことがある。ぜひ、一歩を踏み出そう」です。

鳥取西高卒業生としての誇りを胸に、三年間の学びを活かして可能性にチャレンジし、さらに飛躍されることを祈念申し上げます。お祝いと歓迎のメッセージとさせていただきます。

令和三年三月一日

昭和四五年卒業（第二回）

近畿同窓会会長 窪田邦倫

（卒業生に寄せたメッセージ）

学校長式辞



西高ホームページより

西高二コース

【新体制】

今年三月末で退任された山本英樹・前校長の後任として、國岡進先生（西高五九年）が四月一日付で着任されました。

なお、山本前校長の挨拶文を会報に掲載しています。

【スーパーサイエンスハイスクール認定】

鳥取西高が令和三年四月から、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（S・S・H）に認定されました。

S・S・Hは、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を重点的に実施する高校で、全国から二五校が選ばれています。認定期間は、令和七年までの五年間です。

【大手門（中ノ御門表門）完成】

これまで、西高南側の濠にかかる大手橋についてご報告しておりますが、今回は、濠から校舎側に渡ったところに位置する大手門についての報告です。

この門は享保五年（一七二〇）に火災で焼失。その後、再建されたものの、明治時



復元された中ノ御門表門

代に撤去されました。このため、復元に当たっては、発掘調査で正確な場所や規模を確定し、工法も近代工法ではなく、伝統工法で行われました。

完成した門は、石垣に取り付いた形です。門に近い部分のみ、石垣の上の白壁の塀も復元されています。さらに、葺かれた瓦は徳川幕府から使用を許された葵の御紋が使われています。

会員の近況



（昨年の返信葉書通信欄より）

武田彰正（西高二六年）元気で仕事をしています。もともと五月は社員八人が四人ずつ出社していました。六月からは毎日出社しています。

倉光弘己（西高二九年）要介護4の老々介護のほか、一般社団法人大阪自由大学の学長、認定こども園の理事長をしています。

佐々木清臣（西高三〇年）今年は七回目の年男になりましたので、良い年になるよう祈っていました。コロナ騒ぎやら豪雨でこれから地球はどうなるのか心配しています。小生はくちびるに歌を持っています。従い、四、五月は休みでしたが、六月からは一人カラオケで頑張っています。残り少ない人生を楽しく生きたいと思っています。

草野榮子（西高三三年）今年八〇歳。コロナ感染要注意二百%です。外出を避け、ステイホーム中心の毎日です。腰痛など病氣治療の今、家で好きなことに夢中。老化にブレーキをかけています。骨を強くするフォルトテオ治療をスタートしました。

坂口勇（西高三三年）コロナで海外出張、外国人の来日不可でビジネスにも影響ができています。フィリピンの印刷会社はズームミーティング（ビデオ会議）による株主総会にしました。現在はテレワークが多く来客がなければ週一度ぐらいの出勤にしたいと考えています。

大塚元也（西高三四年）三月五日癌で胃の全摘をしました。一人で食事を何度も作りながら過ごしています。手術も抜糸当日に内出血、二度腹を切って二カ月も入院しました。何とか元気で過ごしています。最近トレーニングしたり、プールに入ったりしています。

古川肇（西高三四年）コロナ以前に比べると街に出かけることなどは少なくなりましたが、数年前のストックで凌いでいますが、使い捨てマスクが国内生産でないことも今知りしました。

清末直行（西高三六年）六月からスポーツジムが解禁になったので毎日ジム通いです。あとは気の合った仲間とゴルフをスループレイで楽しんでいます。

高野彰允（西高三六年）コロナ関係は幸いにも無事に過ごしております。今年度末には七八歳となり外出がしんどくなってきました。



鳥取城天球丸の石垣と市内遠望

市川渥史（西高三七年）楽しみにしていた大阪市での哲学勉強会も四月五月は中止になり、六月から復活しました。往復の電車の中や市内ではマスクをしていない人が多くて驚かされます。毎日のように感染者数を発表して不安を煽るマスコミには悪意さえ感じます。

花本清乃（西高四〇年）糖尿病でインシュリンを朝晩うっているため、買い物、病院以外は家から出ないようにしています。私は日々、年々、体のあちこちガタがきています。

田口徹（西高四二年）幸いなことに神戸の方はコロナの影響比較的落ち着いているように思えますが、油断はできないですね。運動不足解消に毎日一時間ほどウォーキングをしています。もう少し頑張りたいですね。

橋本俊朗（西高四二年）自肅のなか、ピンチはチャンスと、整理・整頓・清掃を楽しんでいます。

藤岡均（西高四二年）今のところ身近では感染者はおりません。仕事への影響は半年〜一年後ぐらいと思われます。職場では

最年長の為、マスク着用、時差出退、テレワーク等に気を付けています。まだまだ安心できる状況ではないと思いますので感染しない、他の人に感染させない様に気を付けたいと思います。

安宅寿昭（西高四三年）手洗い、うがい、マスクを必須としています。在宅酸素療法でなんとか過ごしています。

小谷博子（西高四三年）巣ごもり状態の中で布マスク作りを少々頑張りと、そして電車、バスに乗らない近郊の山行きに。神戸は山が近場にあることに感謝です。ジムに行かなくても体力作りできてます。

荻野恭介（西高四四年）元々アトリエ引きこもり症候群の生活を続けていますので、コロナはほとんど影響ありません。

森本陽子（西高四四年）コロナで不安な日々です。少しでも明るい兆しが見えたらと思います。祈るばかりです。

坂口正義（西高四七年）コロナにより趣味も完全に巣ごもり型に変わりました。①旅行↓近所のウォーキング等へ ②音楽↓自宅カラオケ、一人演奏 ③スポーツジム↓自宅体操、筋トレ 加えてテレビドラマ（トルコ、中国）を見る楽しみが増えました。

西川愛人（西高四八年）今年も特約社員で勤めています。四月から計画休業で在宅

しています。孫の保育園への送迎、孫との散歩、自身の散歩に勤しんでいます。

田淵道幸（西高五〇年）家人からはジジイ待機と言われながらのテレワークひと月半でした。散歩を日課に二キロ減量がせめてもの成果です。

外海恵美子（西高五二年）なんとか元気にしております。大変な年になり少しでも早く皆様に幸せな日々が戻りますようにと祈っております。

米田明弘（西高五二年）シニア社員も三年目になりました。コロナ感染に怯えつつ毎日一時間かけて電車通勤しています。

佐々木宏（西高五三年）朝日新聞社を退職後、神戸女子大学、宝塚大学で非常勤講師をしています。コロナのために二〇二〇年度前期はゴールデンウィーク後に遅れて始まり、オンライン授業、パソコン作業に追われる毎日です。

牧野博子（西高五五年）マスクを作ったり、梅シロップ、レモンシロップ、ジンジャーエール作り、夫との楽器セッション。ズームとスカイプと様々に楽しみました。



生駒山のキンラン
(絶滅危惧種)

令和二年度年会費 ご協力者

(卒業年次順 敬称略)

太中繁夫、池沢春江、浜本英子、吉村芳野、岸本宏、高野泰明、伏野義夫、櫻井典彦、前屋敷洋子、森西良俊、若槻昌子、倉光弘己、澁谷須万子、南和子、佐々木清臣、榊井教郎、松永澄子、山根啓作、山本義憲、篠田琢司、田口邦子、洞山蓉子、松本七子、加嶋敬、田井勇、大倉幸典、草野榮子、坂口勇、西村敏弘、佐伯宏志、田中慶子、田中昂、古川肇、石本武志、下村玲子、曾根崎崇臣、村尾領彦、大塚元彦、清末直行、東中文江、市川渥史、山本勝三、米澤道隆、岡史江、川上義美、加藤孝幸、西尾彰子、薄墨早苗、宇都宮栄子、後藤玲子、寺谷英一郎、徳田稔、森田 暁、岩永建夫、石塚敏子、小上育代、田口徹、橋本俊明、藤岡均、吉田章、安宅寿昭、江坂詩朗、小谷繁昭、小谷博子、谷口正夫、片山寿江、得田ヨウコ、村江信幸、安居真弓、山内紀嗣、山本雅章、品田美津子、助飛羅力、中島順子、中岸千恵、花房斉一、松岡孝道、森本陽子、安井維津子、吉村鉄太郎、窪田邦倫、酒澤一嘉、佐藤和代、松尾三紀子、横井妙子、佐々木忠司、谷尾吉郎、岩田育穂、川合くみこ、坂岡隆司、坂口正義、中井由美子、西川愛人、澤美和子、山田希代子、佐々木映子、高田憲一、田淵道幸、秦やす子、由谷ひろみ、米田明弘、岩井順一、

沖淑子、馬飼誠、佐々木宏、太田順康、大山久美子、山根滋利、牧野博子、弓削由佳、勝美武、窪田倫子、吉永果恵

(合計一三名)

有り難うございました。

智頭街道から見た久松山



お悔やみ

柁井教郎（西高三〇年）
篠田琢司（西高三一年）
安田健志（西高三七年）
松本真知子（西高四二年）
松田哲治（西高四二年）
串野俊一（西高四四年）

(連絡頂いた方のみ)

(事務局連絡先)

〒631-0803

奈良市山陵町三六〇一

サンプラザ二〇八

村江信幸 宛

090-34665-72003

